

## オオキンケイギク

＜キク科 多年草＞ 北米原産



### 【特徴】

花：開花期は5～7月  
鮮やかな黄色の花で、  
花びらの先は4～5裂する。  
花の直径は、5～7cm

茎：高さ30～70cm  
根本から多数の茎を伸ばして  
株立ち状になる

葉：両面とも粗い毛がある

### 【繁殖方法】

種子、地下茎により繁殖する。  
地面に落ちた種子は埋土種子集団(土壤中に発芽せずに  
生存し続ける種子の集まりのこと)をつくる。  
土壤中の種子は数年間生存することがあるため、ある年に  
繁殖しなくても、翌年繁殖する可能性がある。

### 【防除方法】

5～7月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。  
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。  
(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)  
オオキンケイギクがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。  
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

### 【県内の分布】

加賀から能登まで広く分布しており、手取川をはじめとする河川敷やのと里山海道、加賀産業道路等の道路法面で

### 【影響・被害】

オオキンケイギクは、河川敷や道路の法面に繁茂しており、河川敷固有の植物等の在来種との競合や駆逐など、在来種に対して悪影響を与える恐れがあります。

## オオハンゴンソウ

<キク科 多年草> 北米原産



### 【特徴】

花：開花期は7～10月  
黄色の頭状花で直径6～10cm  
舌状花は10～14枚

茎：高さ1～3m  
地下茎が横に走っていて群生する

葉：葉の裏にのみ短毛がある  
下部の葉は長い柄がある  
上部の葉は短～無柄

### 【繁殖方法】

種子、地下茎により繁殖する。  
地面に落ちた種子は埋土種子集団(土壤中に発芽せずに生存し続ける種子の集まりのこと)をつくる。  
土壌中の種子は数年間生存することがあるため、ある年に繁殖しなくても、翌年繁殖する可能性がある。

### 【防除方法】

7～10月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。  
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。  
(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)  
オオハンゴンソウがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。  
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

### 【県内の分布】

主に河川敷や道路法面で生育し、安原川をはじめ、白山白川郷ホワイトロードでも確認されています。

### 【影響・被害】

全国的にみて、国立公園の湿原など自然度の高い環境に定着し、湿原植物などの貴重な在来植物との競合や駆逐など、在来植物に対して悪影響を与える恐れがあります。

## アレチウリ



＜ウリ科 1年草＞ 北米原産



写真提供: 米山競一

### 【特徴】

花: 開花期は8～10月  
葉と茎の間に直径1cmほどの黄白色の花をつける。  
果実は長さ1cm程の楕円形で鋭い棘を密生する

茎: 粗い毛を密生したつるで、長さ数～10数mになる

葉: 径10～20cm

### 【繁殖方法】

種子により繁殖する。  
大量の種子を生産し、一部は埋土種子集団(土壤中に発芽せずに生存し続ける種子の集まりのこと)をつくる。  
土壤中の種子は数年間生存することがあるため、ある年に繁殖しなくても、翌年繁殖する可能性がある。

### 【防除方法】

夏に繁茂したあと、秋にたくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。  
また、発芽期間の春～秋に複数回駆除を行うのが効果的です。  
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。  
(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)  
アレチウリは、秋には枯れてしましますが、生えていた場所の土には、たくさんの種子が含まれています。  
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

### 【県内の分布】

荒地や土手、特に河川の肥沃地を好んで、生育・群生し、能登から加賀まで広く分布しており、犀川や梯川の下流域等で確認されています。

### 【影響・被害】

全国の河原や林縁で大繁茂し、在来植物との競合や駆逐などが懸念されています。他の植物に覆い被さり、それらの成長を阻害するなど、植物の多様性に悪影響を及ぼしています。また、飼料畑でも大発生して農業被害を生じています。

## オオカワヂシャ



＜ゴマノハグサ科 1年～多年生草本＞  
ヨーロッパ～アジア北部原産



### 【特徴】

全体が無毛

花:開花期は4～9月

淡紫色～白色の花を多数つけ、果実は球形。  
花の直径は5mmほど

茎:高さは30～100cm

地中を横走する根茎から茎を直立させる。

葉:長楕円形～披針形

### 【繁殖方法】

種子、地下茎により繁殖する。

種子は風、雨、動物などにより伝播される。

### 【防除方法】

4～9月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)オオカワヂシャがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

### 【県内の分布(現在確認している場所)】

伊久留川河床(中能登町)、手取川下流河川敷(川北町、白山市)  
河北潟干拓地及び周辺(かほく市、津幡町、内灘町、金沢市)

### 【影響・被害】

在来種との競合や駆逐など、在来種に対して悪影響を与える恐れがあります。

在来種のカワヂシャ(いしかわレッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類)と交雑し、遺伝的な攪乱を生じさせる恐れがあります。